



【広島キャンパス】



【庄原キャンパス】



県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

公立大学法人

県立広島大学概要 2017



【三原キャンパス】



【サテライトキャンパスひろしま】

目次



ビジョン	1	学位取得・国家試験合格	11
基本理念・人材育成目標	2	卒業時の総合的満足度	14
沿革	3	進路・就職状況	
組織	4	国際交流	15
役員等	5	重点研究事業	16
役員・教職員数	6	地域貢献	18
学生数	7	競争的外部資金獲得状況	19
入試状況	8	特許	21
授業満足度	9	本学トピックス（平成28年）	22
大学教育再生加速プログラム（AP）事業	10		

～本学の進むべき未来～



理事長・学長 中村健一

広島県内の3県立大学の再編・統合により誕生した県立広島大学は、今年度13年目を迎えました。統合後、教職員が一体となった一つの大学としての歩みは、一定の成果となって結実しています。特に教育に関して言えば、本学の全授業に対する学生の満足度は、開学初年度は80%でしたが、教職員一体となった授業改善の努力により上昇し、現在は91.1%にまで達しています。また、研究においては文部科学省からの科学研究費助成事業の採択件数が、平成28年度は統合前の2倍以上の、90件に達し、この10年間、中国・四国・九州に所在する27公立大学の中では際だったトップの座に位置しています。こうした教育力と研究力は、本学の資産となって地域との連携に活用されてきました。

今日、本学を取り巻く環境は、グローバル化や情報化のさらなる進展などにより刻々と変化し、個人にとっても、社会にとっても将来の予測が、ますます困難な時代に突入しています。このような予測困難な時代の中であって、大学には、生涯学び続け、主体的に考え、行動できる人材を輩出（育成）するための教育を提供していくことが求められています。特にグローバル化した社会では、異文化社会における対立、環境問題や格差の拡大など多くの新たな問題が生じており、こうした課題を解決する実践力が社会から強く求められています。

今後10年後、20年後の大学の将来を見据えたとき、県立広島大学が、引き続き、県内外の高校生等から選ばれ、地域から信頼される大学として存在し続けるためには、本学で培われ高評を得てきた「愚直力」に更に磨きをかけるとともに、「主体的で」、「自分の意見を述べることができ」、「チャレンジスピリットを有する」など、自ら課題を見つけ、主体的に取り組み、解決していく力を身に付けさせ、地域創生の一翼を担える人材として社会に巣立たせるための教育に、従来にも増して取り組む必要があります。また、本学の研究についても、より地域に寄り添い、地域創生に関わる事業（取組）の重点化を図りながら、成果の「見える化」に努める必要があると考えています。

基本理念・人材育成目標

基本理念

地域に根ざした県民から信頼される大学

県が設立した大学として、地域に貢献する「知」の創造・応用・蓄積を図り、「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を目指して、教育・研究・地域貢献活動を積極的に推進しています。

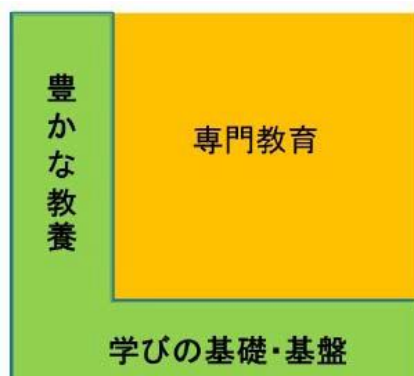


人材育成目標

主体的に考え、課題解決に向けて行動できる実践力と豊かなコミュニケーション能力を備え、幅広い教養と高度な専門性に基づいて、高い志とたゆまぬ向上心をもって地域や国際社会で活躍できる人材を育成します。

【教育の特色】

「主体的に考え、行動し、地域社会で活躍できる実践力のある人材の育成」を目標として、教養教育では、大学4年間の学士課程教育を通じて実施する「全学共通教育科目」を設定するとともに、専門教育では、教養教育との連携を図りながら「専門教育科目」を系統的に設定し、バランスのとれた教育内容を提供しています。

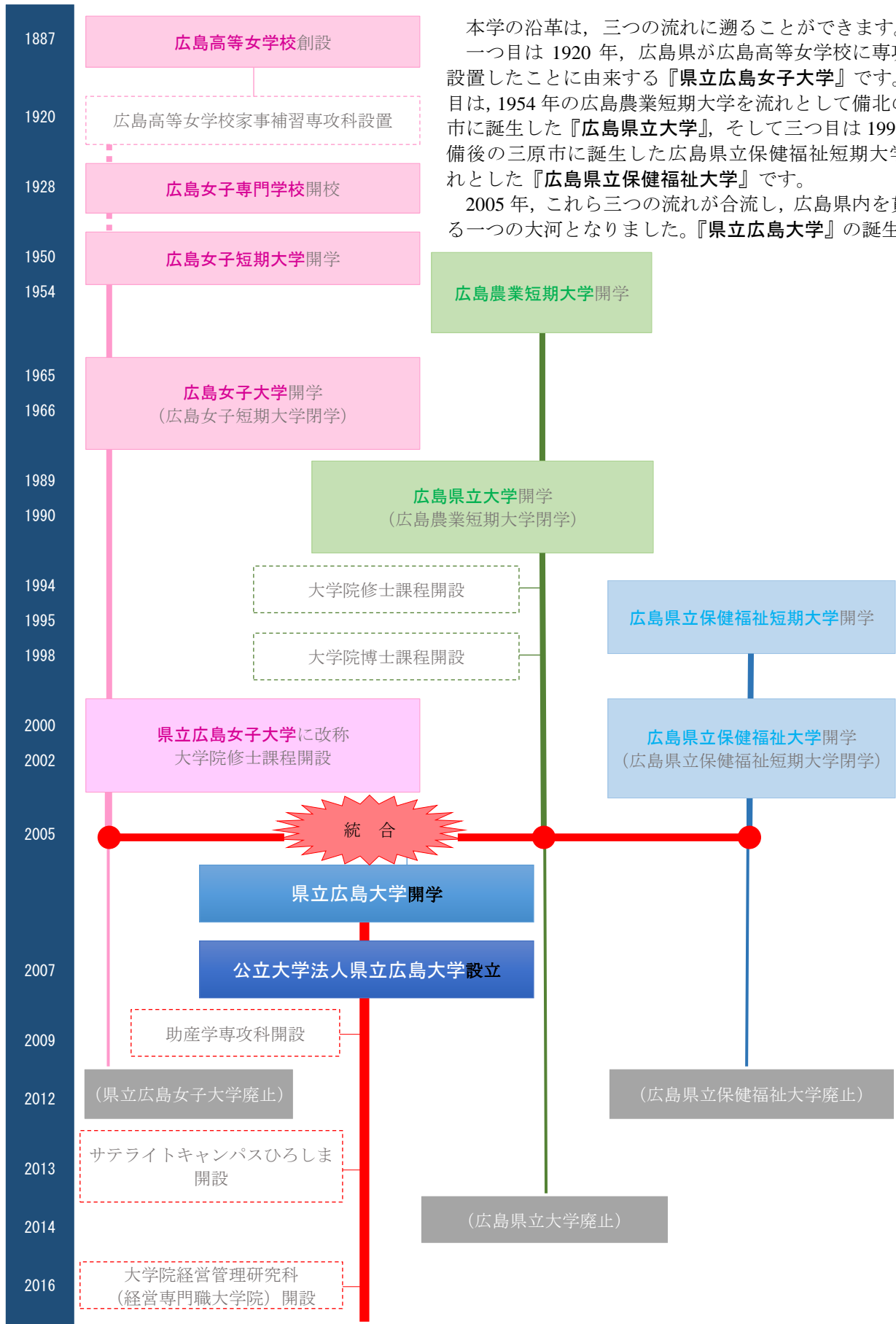


L字型教育：大学生としての「学びの基礎・基盤」を固め、「豊かな教養」を4年間を通じて身につける。

【研究の特色】

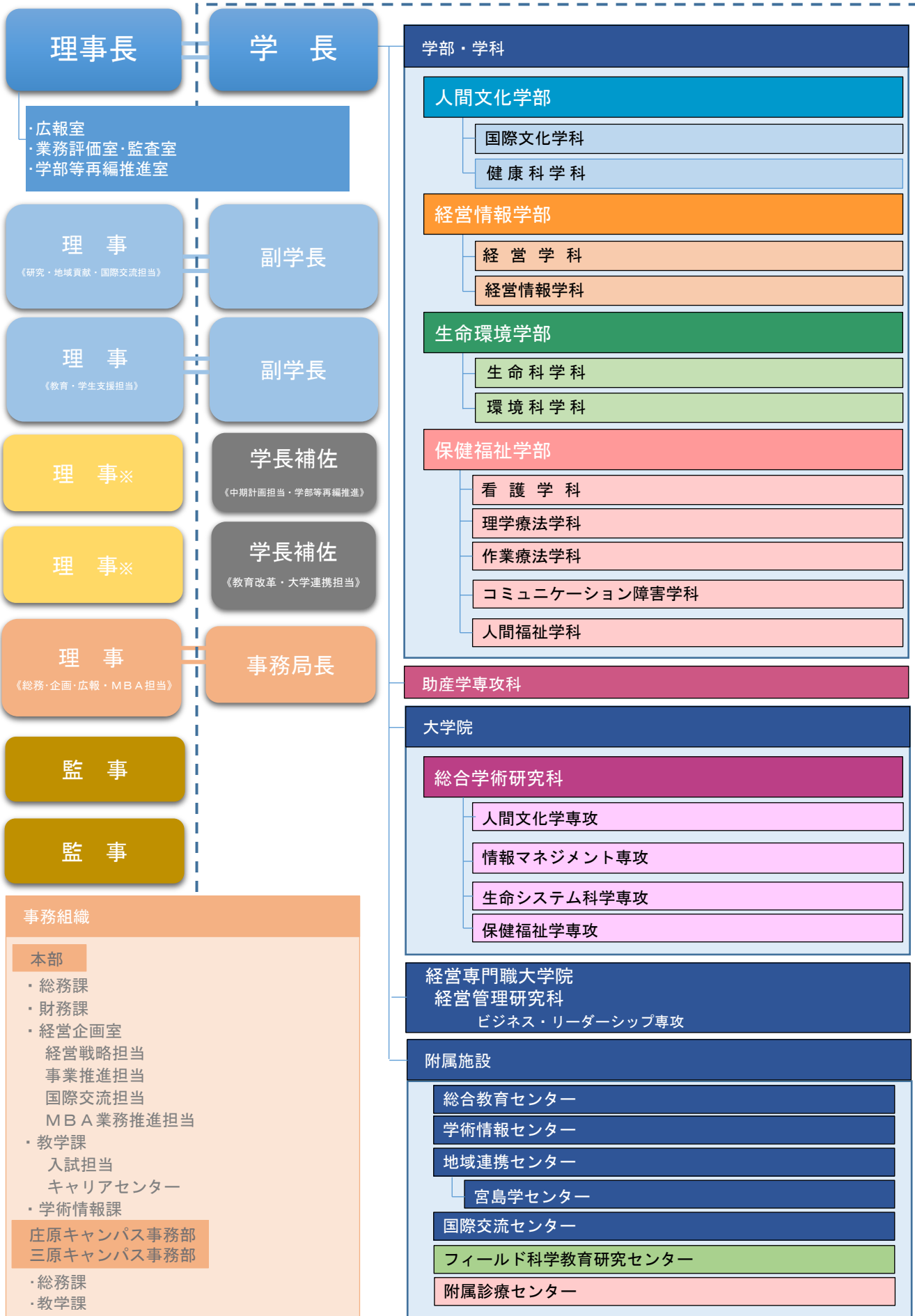
地域に貢献する「知」の創造・応用・蓄積を目的として、地域に根ざした高度な研究の実践に取り組んでいます。また、研究活動の活性化を図るとともに、地（知）の創造拠点として地域産業の振興や地域課題への貢献を目的とした「重点研究事業」を実施しています。

沿革



本学の沿革は、三つの流れに遡ることができます。
 一つ目は1920年、広島県が広島高等女学校に専攻科を設置したことによる『県立広島女子大学』です。二つ目は、1954年の広島農業短期大学を流れとして備北の庄原市に誕生した『広島県立大学』、そして三つ目は1995年に備後の三原市に誕生した広島県立保健福祉短期大学を流れとした『広島県立保健福祉大学』です。
 2005年、これら三つの流れが合流し、広島県内を貫流する一つの大河となりました。『県立広島大学』の誕生です。

組織(H29.5.1)



※:非常勤

役員等(H29.5.1)

役員・監事

職名／担当	氏名
理事長	中 村 健 一
理事／研究・地域貢献・国際交流担当	原 田 俊 英
理事／教育・学生支援担当	西 本 寮 子
理事／総務・企画・広報・MBA担当	栗 栖 恭 三
理事※	安 東 善 博
理事※	榊 原 恒 雄
監事	赤 羽 克 秀
監事	船 木 孝 和

※非常勤

学長・副学長・学長補佐

職名／担当	氏名
学長	中 村 健 一
副学長	原 田 俊 英
副学長	西 本 寮 子
学長補佐／中期計画・学部等再編推進担当	藤 井 保
学長補佐／教育改革・大学連携担当	馬 本 勉

事務局長・次長・事務部長

職名／担当	氏名
事務局長	栗 栖 恭 三
事務局次長／総務担当	尾 崎 哲 也
事務局次長／経営企画担当	池 田 肇
事務局次長／教学担当	中 山 雅 子
庄原キャンパス事務部長	松 原 高 己
三原キャンパス事務部長	仁 田 充 俊

役員・教職員数(H29.5.1)

(単位:人)

役員数

理事長	理事	監事	計
1	5	2	8

教員数

キャンパス	部 局	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	計
広島	人間文化学部	21	10	3	5		39
	経営情報学部	13	14	1			28
	大学院経営管理研究科	6	3				9
	総合教育センター	2	2	2	1		7
	学術情報センター		1				1
	地域連携センター		1		1		2
	計	42	31	6	7	0	86
庄原	生命環境学部	24	19		4		47
	総合教育センター		2				2
	学術情報センター						0
	地域連携センター		1				1
	計	24	22	0	4	0	50
三原	保健福祉学部	36	25	15	18	4	98
	助産学専攻科		2	1		1	4
	総合教育センター			1			1
	学術情報センター			1			1
	地域連携センター						0
	計	36	27	18	18	5	104
合計		102	80	24	29	5	240

※学長・副学長を除く。

事務職員数

広島キャンパス	庄原キャンパス	三原キャンパス	計
72	23	26	121

学生数(H29.5.1)

学部学生数

学部	1年			2年			3年			4年			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
人間文化学部	20	108	128	13	112	125	16	117	133	20	121	141	69	458	527
	(480)														
経営情報学部	48	69	117	51	59	110	50	71	121	55	61	116	204	260	464
	(400)														
生命環境学部	89	79	168	85	85	170	86	79	165	111	77	188	371	320	691
	(660)														
保健福祉学部	24	175	199	38	155	193	39	156	195	56	153	209	157	639	796
	(760)														
合計	181	431	612	187	411	598	191	423	614	242	412	654	801	1677	2478
	(2300)														

※下段()内は収容定員

専攻科学生数

専攻科	男	女	計
助産学専攻科	0	10	10
	(10)		

※下段()内は収容定員

大学院学生数

研究科	専攻	修士課程・前期博士課程			後期博士課程			専門職学位課程			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総合学術 研究科	人間文化学専攻	6	21	27	—	—	—	—	—	—	6	21	27
		(20)			(—)			(—)			(20)		
	情報マネジメント専攻	11	11	22	—	—	—	—	—	—	11	11	22
		(20)			(—)			(—)			(20)		
	生命システム科学専攻	27	19	46	9	6	15	—	—	—	36	25	61
		(60)			(15)			(—)			(75)		
	保健福祉学専攻	22	36	58	—	—	—	—	—	—	22	36	58
		(40)			(—)			(—)			(40)		
経営管理 研究科	ビジネス・リーダーシップ [®] 専攻	—	—	—	—	—	—	41	14	55	41	14	55
		(—)			(—)			(50)			(50)		
合計		66	87	153	9	6	15	41	14	55	116	107	223
		(140)			(15)			(50)			(205)		

※下段()内は収容定員

入試状況(H29 年度)

学部(一般入試・推薦入試・特別選抜)

学部	区分	募集人員	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数			競争率
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
人間文化	国際文化	85	91	298	389 (269)	61	189	250 (182)	22	81	103 (76)	19	71	90 (71)	2.4
	健康科学	35	4	208	212 (132)	3	146	149 (100)	1	38	39 (27)	1	37	38 (27)	3.8
	計	120	95	506	601 (401)	64	335	399 (282)	23	119	142 (103)	20	108	128 (98)	2.8
経営情報	経営	60	188	165	353 (249)	133	126	259 (187)	29	49	78 (63)	26	44	70 (60)	3.3
	経営情報	40	126	79	205 (117)	80	43	123 (79)	25	26	51 (33)	22	25	47 (32)	2.4
	計	100	314	244	558 (366)	213	169	382 (266)	54	75	129 (96)	48	69	117 (92)	3.0
生命環境	生命科学	110	277	274	551 (131)	171	164	335 (89)	71	83	154 (47)	52	61	113 (38)	2.2
	環境科学	55	164	75	239 (54)	93	40	133 (35)	46	25	71 (21)	37	18	55 (19)	1.9
	計	165	441	349	790 (185)	264	204	468 (124)	117	108	225 (68)	89	79	168 (57)	2.1
保健福祉	看護	60	20	220	240 (207)	15	150	165 (145)	2	62	64 (53)	2	60	62 (53)	2.6
	理学療法	30	71	71	142 (78)	50	54	104 (64)	12	22	34 (17)	11	21	32 (16)	3.1
	作業療法	30	36	95	131 (54)	26	70	96 (41)	5	27	32 (14)	5	26	31 (14)	3.0
	コミュニケーション障害	30	10	101	111 (30)	7	79	86 (23)	3	30	33 (12)	2	29	31 (11)	2.6
	人間福祉	40	55	192	247 (126)	42	132	174 (98)	5	39	44 (29)	4	39	43 (29)	4.0
	計	190	192	679	871 (495)	140	485	625 (371)	27	180	207 (125)	24	175	199 (123)	3.0
合計		575	1042	1778	2820 (1447)	681	1193	1874 (1043)	221	482	703 (392)	181	431	612 (370)	2.7

※下段()内は県内出身者
競争倍率=受験者数/合格者数

専攻科

専攻科	区分	募集人員	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数			競争率
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
助産学専攻科		10	0	35	35 (15)	0	35	35 (15)	0	11	11 (5)	0	10	10 (5)	3.2

※下段()内は県内出身者
競争倍率=受験者数/合格者数

大学院

大学院	区分	募集人員	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数			競争率
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
総合学術 研究科	人間文化学専攻 (修士)	10	4	5	9 (6)	4	5	9 (6)	4	5	9 (6)	4	5	9 (6)	1.0
	情報マネジメント 専攻 (修士)	10	6	4	10 (10)	6	4	10 (10)	6	4	10 (10)	6	3	9 (9)	1.0
	生命システム科学 専攻 (博士前期)	30	17	7	24 (24)	17	7	24 (24)	17	7	24 (24)	16	7	23 (23)	1.0
	生命システム科学 専攻 (博士後期)	5	2	1	3 (3)	2	1	3 (3)	2	1	3 (3)	2	1	3 (3)	1.0
	保健福祉学専攻 (修士)	20	8	14	22 (13)	8	14	22 (13)	8	14	22 (13)	8	14	22 (13)	1.0
経営管理 研究科	ビジネス・リーダー シップ専攻 (修士)	25	34	7	41 (40)	32	7	39 (38)	20	6	26 (25)	20	6	26 (25)	1.5
	合計	100	71	38	109 (96)	69	38	107 (94)	57	37	94 (81)	56	36	92 (79)	1.1

※下段()内は県内出身者
競争倍率=受験者数/合格者数

授業満足度

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
満足度 (%)	92.6%	93.0%	93.2%	92.4%	91.1%

※「総合的に判断して、この授業に満足していますか。」との問いに対し、「強くそう思う」、「そう思う」と回答した学部生の割合(%)。

大学教育再生加速プログラム (AP) 事業

本学は、文部科学省 平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム」のテーマ I (アクティブ・ラーニング) に応募し、採択されました。このプログラムは、国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援することを目的としています。本学は、幅広い教養と高度な専門性を備えた実践力のあるアクティブ・ラーナーを育成することを目指し、この事業を推進しています。

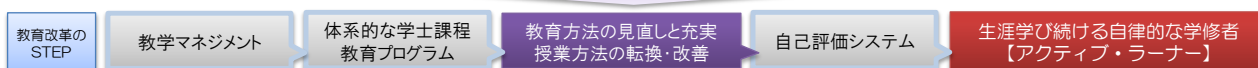
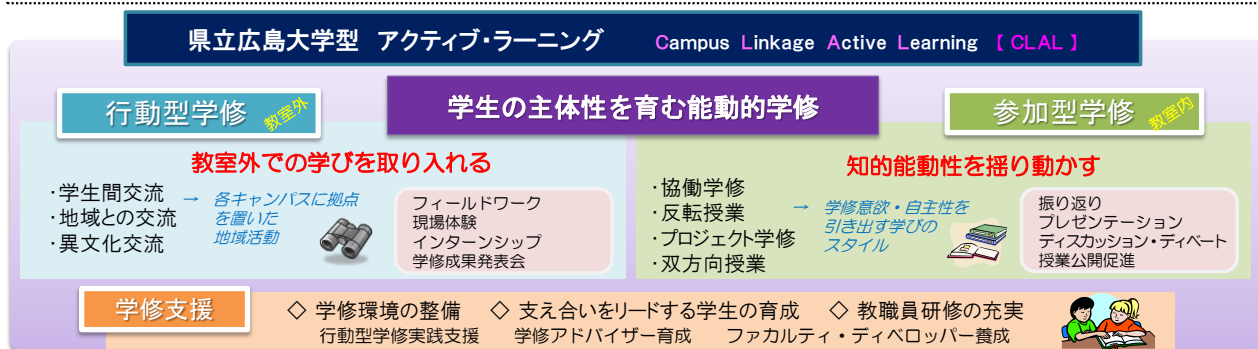
平成26年度「大学教育再生加速プログラム」選定取組



大学等名： 県立広島大学

テーマ： テーマ I (アクティブ・ラーニング)

取組概要 地域活動を組み込み、主として教室外で行う「行動型学修」と、学修者の知的能動性を揺り動かす深い学びを喚起する「参加型学修」を組み合わせた「能動的学修」を学士課程教育に計画的に導入して教育改革を進める全学的な取組である。これにより、幅広い教養と高度な専門性を備えた人材を育成し、生涯にわたり学び続ける自律的な学修者アクティブ・ラーナーの育成を目指す。



数値目標	25年度		29年度	
	25年度	29年度	25年度	29年度
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合*	100%	100%		
ファカルティ・ディベロッパー養成	0人	30人		
学修アドバイザー育成	0人	55人		

* 29年度の数値目標はアクティブ・ラーニングを再定義した上での値である

学長のリーダーシップの下、教育改革に取り組む。本学での学びに対する学生の満足度を高め、卒業生の活躍により地域への波及効果を狙う。

- ・教室外での学びを取り入れ、学修意欲・自主性を引き出す新たな教授法による授業外学修の充実を加速する。
- ・知識を活かせる人材の育成を目指して、真の問題発見力や課題解決力、論理的思考力を育む。
- ・FD・SD活動の充実により、教職員の意欲を向上させる。目標を共有し、教育の質的改善に全学的・組織的に継続して取り組む。
- ・学生同士が教え合うことで、学びを定着させる。

【平成28年度の主な取組】

項目	取組	実施内容
県大型アクティブ・ラーニング(CLAL)の推進	行動型学修の実践支援	・学外実習へ参加する学生への移動支援
	参加型学修促進のための学修環境整備	・タブレット端末の整備、運用 ・クリッカーシステムの整備、運用
ファカルティ・ディベロッパー(FDer)の養成	各学部・学科及びセンターの授業改善を牽引する FDer を養成するための講座の開講(全5回)	テーマ: 「ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ」 「ICE モデル:アクティブ・ラーニングの効果的なツール」 「ひとつひとつをつなげるルーブリック」 「学修成果の評価」
他の学生の学びを支援する「学修支援アドバイザー」による学修支援	図書館ラーニング commons における学修支援	・試験対策相談会における学修相談対応 ・個別の学修相談対応
	授業担当教員の求めに応じて行う、授業内のアクティブ・ラーニングの補助や、授業外学修のサポート等の学修支援	・フィールドワークにおける学修のサポート ・授業の成果発表会における学生への意見・助言 ・eラーニングによる授業外学修の支援
高大連携事業	広島県の高等学校の学びを知り、本学の実践に活かす	・「広島県の学びの変革に係る意見交換・説明会」の開催 ・「平成28年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会」の開催
教育改革フォーラムの開催	教育改革フォーラムの開催による、事業成果報告などを通じた年度の取組総括	テーマ: 「アクティブ・ラーニングと高大接続」

学位取得・国家試験合格

学位取得人数

大学院	学位名称	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
		課程博士	論文博士	課程博士	論文博士	課程博士	論文博士
生命システム科学 専攻	博士 (生命システム科学)	5	0	5	1	6	0

平成 28 年度博士学位論文

	題目
1	虚血再灌流が歩行に与える影響に関する実験的研究
2	畜産 2 次処理排水中の窒素とリンの除去・回収
3	数値流体力学解析を用いた頭頸部動脈における動脈硬化リスク評価に関する研究
4	筋収縮後の再酸素化実験に関する研究
5	認知症における統計学的脳機能画像解析に用いる脳血流 single photon emission computed tomography (SPECT) 画像の新たな補正技術に関する研究
6	ラクトフェリンの DSS 誘発潰瘍性大腸炎における DMH 誘発大腸癌に対する作用について

国家試験合格実績 (注：いずれも既卒者を除く。)

■管理栄養士国家試験

年度	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
平成 24 年度 2012	35	35	100	82.7
平成 25 年度 2013	35	35	100	91.2
平成 26 年度 2014	37	37	100	95.4
平成 27 年度 2015	36	35	97.2	85.1
平成 28 年度 2016	36	35	97.2	92.4

■看護師国家試験

年度	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
平成 24 年度 2012	60	59	98.3	88.8
平成 25 年度 2013	62	62	100	89.8
平成 26 年度 2014	58	58	100	90.0
平成 27 年度 2015	62	60	96.8	89.4
平成 28 年度 2016	61	61	100	88.5

■保健師国家試験

年度	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
平成 24 年度 2012	63	63	100	96.0
平成 25 年度 2013	64	61	95.3	86.5
平成 26 年度 2014	61	61	100	99.4
平成 27 年度 2015	18	17	94.4	89.8
平成 28 年度 2016	18	18	100	90.8

■理学療法士国家試験

年度	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
平成 24 年度 2012	27	27	100	88.7
平成 25 年度 2013	31	30	96.8	83.7
平成 26 年度 2014	30	29	96.7	82.7
平成 27 年度 2015	27	25	92.6	74.1
平成 28 年度 2016	31	31	100	90.3

■作業療法士国家試験

年度	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
平成 24 年度 2012	32	31	96.9	77.3
平成 25 年度 2013	30	29	96.7	86.6
平成 26 年度 2014	27	25	92.6	77.5
平成 27 年度 2015	31	30	96.8	87.6
平成 28 年度 2016	27	21	77.8	83.7

■言語聴覚士国家試験

年度	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
平成 24 年度 2012	30	29	96.7	68.1
平成 25 年度 2013	30	28	93.3	74.1
平成 26 年度 2014	31	29	93.5	70.9
平成 27 年度 2015	28	27	96.4	67.6
平成 28 年度 2016	27	25	92.6	75.9

■ 社会福祉士国家試験

年度	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
平成 24 年度 2012	41	29	70.7	18.8
平成 25 年度 2013	37	32	86.5	27.5
平成 26 年度 2014	39	31	79.5	27.0
平成 27 年度 2015	42	33	78.6	26.2
平成 28 年度 2016	36	28	77.8	25.8

■ 精神保健福祉士国家試験

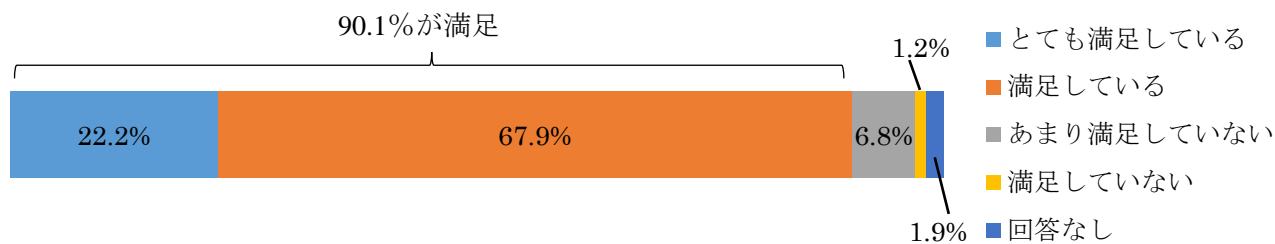
年度	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
平成 24 年度 2012	32	26	81.3	56.9
平成 25 年度 2013	33	31	93.9	58.3
平成 26 年度 2014	29	25	86.2	61.3
平成 27 年度 2015	25	25	100	61.6
平成 28 年度 2016	26	25	96.2	62.0

■ 助産師国家試験

年度	受験者数	合格者数	合格率 (%)	全国合格率 (%)
平成 24 年度 2012	9	9	100	98.1
平成 25 年度 2013	12	12	100	97.6
平成 26 年度 2014	9	9	100	99.9
平成 27 年度 2015	11	11	100	99.8
平成 28 年度 2016	7	7	100	93.0

卒業時の総合的満足度

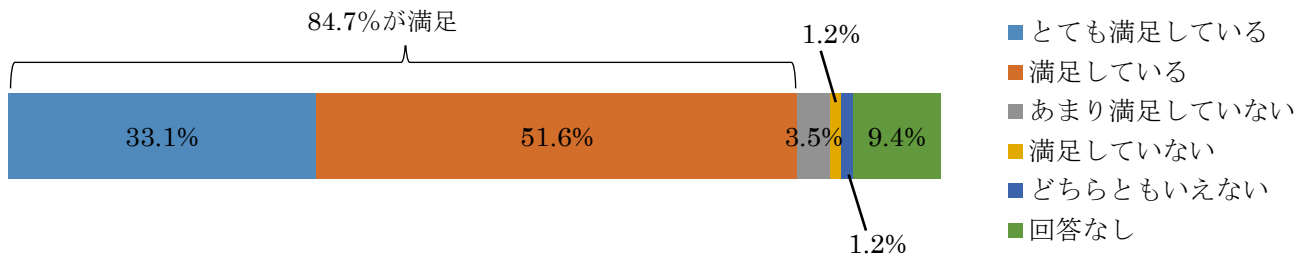
平成28年度卒業予定者の大学生活全般に対する満足度



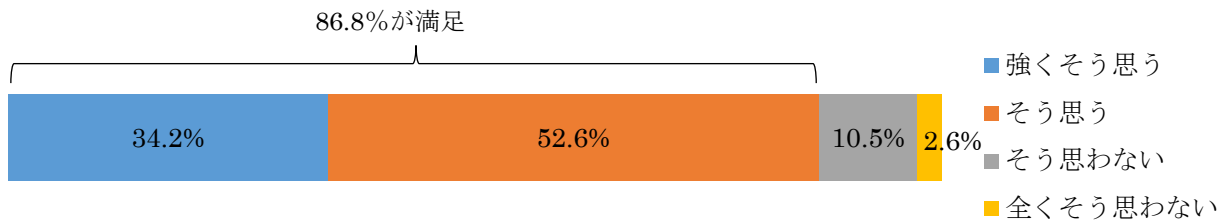
進路・就職状況

年度	学部・大学院	卒業(修了)者数	就職者				進学者等			
			民間企業 (医療・福祉法人含む)	官・公 (公的病院含む)	教員	計	就職率	進学者	その他	計
平成24年度 2012	学部	578	395	69	9	473	95.0%	53	27	80
	大学院	68	43	2	5	50	90.9%	0	13	13
	計	646	438	71	14	523		53	40	93
平成25年度 2013	学部	575	417	73	6	496	98.0%	47	22	69
	大学院	62	44	1	3	48	86.7%	5	5	10
	計	637	461	74	9	544		52	27	79
平成26年度 2014	学部	562	425	62	9	496	98.8%	39	21	60
	大学院	63	43	3	3	49	90.3%	6	5	11
	計	625	468	65	12	545		45	26	71
平成27年度 2015	学部	579	419	81	10	510	99.4%	47	19	66
	大学院	58	40	5	4	49	95.5%	3	5	8
	計	637	459	86	14	559		50	24	74
平成28年度 2016	学部	573	427	66	12	505	99.2%	43	21	64
	大学院	56	43	4	3	50	90.9%	1	5	6
	計	631	470	70	15	555		44	26	70

平成28年度学部卒業予定者の決定進路満足度

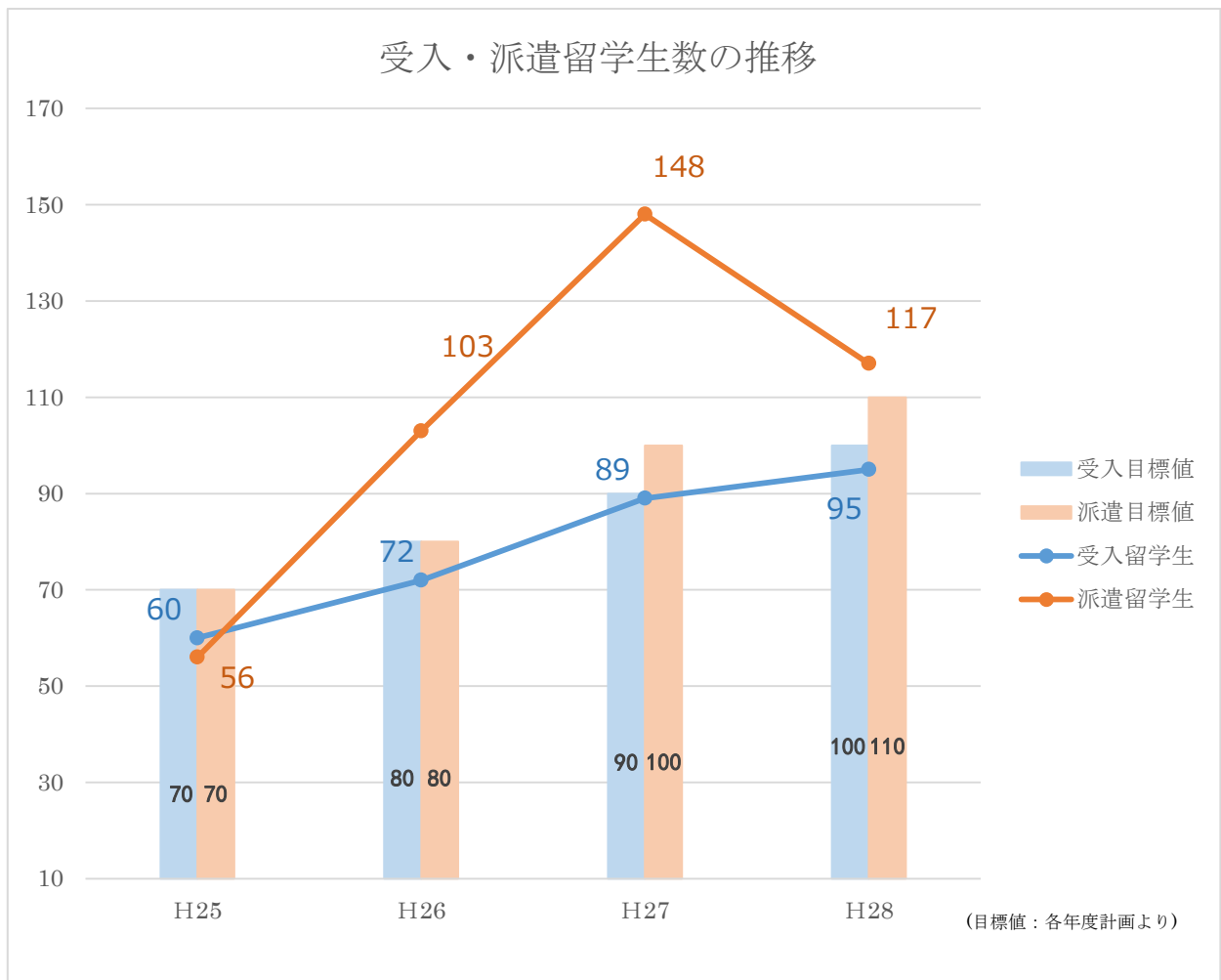


平成28年度大学院修了予定者の内定就職先満足度



国際交流

受入・派遣留学生数



国際交流協定締結校（27校）

国・地域		大学名	締結年月日
アジア	インドネシア共和国	アンダラス大学	2007(H19).9.20
		インドネシア教育大学	2012(H24).11.12
		ジュンブル大学	2014(H26).9.5
	タイ王国	キングモンクット工科大学トンブリ校	1998(H10).10.15※1
		カセサート大学	2014(H26).1.27
		コンケン大学	2014(H26).1.29
	大韓民国	ソウル市立大学	1999(H11).4.21※1
	中華人民共和国	四川大学	1995(H7).5.16※1
		四川農業大学	2004(H16).4.16※1
		西安交通大学	2002(H14).4.15※1
		西南交通大学	2012(H24).4.18
		上海対外経貿大学	2012(H24).12.18
		成都大学	2014(H26).7.24
		長安大学	2016(H28).10.17
台湾	世新大学	2014(H26).3.7	
ベトナム	ノンラム大学	2016(H28).8.19	
バングラデシュ	ジェッソール科学技術大学	2016(H28).8.21	
マレーシア	マレーシアイスラム科学大学	2016(H28).9.19	
欧州	英国	アルスター大学	2013(H25).12.6※2
		ミドルセックス大学	2005(H17).6.14
		シェフィールド大学	2008(H20).6.1※3
	ドイツ連邦共和国	ノルトライン＝ヴェストファーレン州カトリック大学	2010(H22).9.22
フィンランド共和国	東フィンランド大学	2012(H24).9.1	
北米	アメリカ合衆国	ハワイ大学ヒロ校	2006(H18).2.17
		ハワイ大学マノア校アウトリーチカレッジ	2013(H25).1.2
	カナダ	ランガラ大学	2015(H27).6.18
オセアニア	オーストラリア	キャンベラ大学	2016(H28).11.28

※1 平成 18 年度に県立広島大学として再締結した。

※2 平成 20 年度に覚書を締結していたものを学術交流協定として再締結。

※3 平成 24 年 7 月 1 日付けで、従来の学部協定に加え、シェフィールド大学英語教育センターと協定を締結した。

重点研究事業

研究活動の活性化を図るとともに、地（知）の拠点として地域産業の振興や地域課題の解決に貢献することを目的とした本学独自の研究助成事業として、以下の区分から構成される「重点研究事業」を実施しています。

地域課題解決研究

P 18 参照。

学際的・先端的研究（A：単独研究）

【平成28年度学際的・先端的研究（A：単独研究）：採択一覧】

	研究課題	採択額（円）
1	食餌性脂質による胃レプチンシグナルを介した胃粘膜制御機構の解析	926,650
2	CLPABP を介した mRNA 安定化機構における脂質分子の影響に関する研究	566,500
3	次世代シーケンスデータの新規解析法の開発とその環境ゲノミクスへの応用	809,000
4	Neurotensin により卵管で発現する受精・胚発生誘導因子の探索と応用	810,000
5	広島県および庄原市の重要食品素材であるキャベツおよびキクの機能性評価	799,750
6	フグ毒テロドトキシンの尿中排泄メカニズムに関する研究	929,750
7	神経生理学的バイオマーカーを用いたアルツハイマー病超早期診断の検証および地域における認知症予防とその体制づくり	822,200
8	総頸動脈の幾何学的形状解析に基づく頸動脈狭窄の発生部位と頻度の推定	837,400
9	実効あるコーポレートガバナンスに向けた内部統制、監督機能及び外部監査の研究	510,384
10	サステナブル・ブランドの地域ブランドへの適用可能性に関する研究	493,400
11	地域に根ざしたインクルーシブな開発(CBID)の実践と社会的インパクトに関する研究 —社会イノベーション事例を取り巻くステークホルダーとエンパワメントの効果測定・評価	498,393
採択額計		8,003,427

学際的・先端的研究（S：共同研究）

【平成28年度学際的・先端的研究（S：共同研究）：採択一覧】

	研究課題	採択額(円)
1	大腸癌転移の上皮間葉系転化における間葉系幹細胞の重要性 —上皮間葉系転化には大腸癌細胞と間葉系幹細胞の直接の接触が必要か？—	982,200
2	アスコルビン酸誘導体及びアスコルビン酸類似体の創製と応用に関する研究	1,696,000
3	看護系大学教員の組織定着に関する研究	560,100
4	地域高齢者の運動器症候群に対する抗酸化サプリメントを用いた新規予防法の開発	991,500
5	中小企業人材の育成におけるケースメソッド教授法の有効性・実現性に関する調査研究	1,535,200
採択額計		5,765,000

学際的・先端的研究（学長プロジェクト）

【平成28年度学際的・先端的研究（学長プロジェクト）：採択一覧】

	研究課題	採択額(円)
1	里山資源を見直し新たな地域の価値を創生するプロジェクト研究	2,660,400
2	海浜セラピーの実践的活用と社会普及に係わる研究	1,497,000
3	広島県産レモンによる健康創生プロジェクト —三原市を拠点とした健康街づくり—	2,820,836
採択額計		6,978,236

県立総合技術研究所との共同研究

【平成28年度県立総合技術研究所との共同研究：採択一覧】

	研究課題	採択額(円)
1	高発生能卵を作出できるウシ個別化対応型体外成熟技術の開発	1,062,500
	採択額計	1,062,500

地域貢献

地域課題解決研究

地域課題解決研究は、本学教員が、県内の地方公共団体、公的機関・団体等から提案された地域課題に単独で又は提案機関・団体等と共同で取り組む研究です。地域で活躍できる人材の育成や地域が抱える課題への対応などにより、地域貢献活動に積極的に取り組み、全国の大学を対象とした地域貢献度調査において、751大学の中で75位という総合評価を受けています。(日本経済新聞社産業地域研究所、平成27年調査)

【平成28年度地域課題解決研究：採択一覧】

	研究課題（課題提案者）	採択額（円）
1	介護保険施設に導入されたミールラウンドを定着させていくための支援ツールの作成（広島市立リハビリテーション病院）	708,750
2	広島県の小中学校における「食に関する実態調査」等のデータ解析（広島県教育委員会）	603,724
3	広島県内産の日本酒の酒粕を菓子原材料として広く活用するための酒粕の機能性評価に関する研究（広島県菓子工業組合）	726,175
4	尾道市における映画を活用したまちづくり方策の研究（尾道市）	741,371
5	町内会・自治会加入状況改善のための活動の見える化と仕組みづくりに関する考察（広島市）	699,055
6	広島県北部中山間地域に適したミシマサイコ栽培法の確立（県立総合技術研究所 保健環境センター 保健研究部）	632,018
7	広島菜漬けの賞味期限の期間延長と解凍後の食感改善（庄原農業協同組合）	688,548
8	広島県安芸高田市・川根産柚子の特徴と他県産との違いの解析（安芸高田市）	803,550
9	加工品開発による食資源（米・獣肉など）の高付加価値化（安芸高田市）	608,844
10	適正なアユ放流時期の選定に関する調査研究（西川川漁業協同組合）	819,930
11	広島県東部での小規模発電事業を含めた木材の総合的利活用策の検討（神石高原町）	535,600
12	庄原産木質ペレット燃焼灰を有効活用した廃棄物から有価物への転換（庄原市）	875,000
13	薔薇を福山の暮らしや街づくりに活かす“進化系 福山ローズモデル”の提案（福山市）	694,810
14	四国八十八箇所巡拝案内図（西大田地区）の再興と、それを活用した地域づくり（西大田地区振興会連絡協議会）	630,422
15	医療ソーシャルワークにおける医療福祉アクセシビリティ阻害要因に関する研究 — 重層的生活課題の解決プログラム開発 —（広島県医療ソーシャルワーカー協会）	730,580
	採択額計	10,498,377

地域戦略協働プロジェクト事業

地域戦略協働プロジェクトとは、本学と包括連携協定を締結している広島県内の自治体と協働で、自治体等が抱える地域の課題解決を図る事業です。

【平成29年度地域戦略協働プロジェクト一覧】

協定締結自治体	事業名
庄原市	学校給食の食品廃棄物を肥料化する食品リサイクルループ形成促進
三原市	三原市の人権教育・啓発の現状と今後の方向性について
安芸高田市	中山間における多文化共生社会の仕組みづくり
世羅町	空き家を活用した地域振興
尾道市	尾道市シルバーリハビリ体操事業がもたらす様々な効果について
江田島市	江田島産クロダイを用いた新商品開発と高付加価値化
三次市	野草等の地域資源を活用した入浴剤の開発研究
広島市南区	広島駅南口界隈の魅力に関する研究

公開講座・講演会・シンポジウム

【公開講座の開催推移】（地域連携センター事業分）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
講座数	89	74	74	75	80
延べ参加人数	6,516	6,277	6,269	5,345	5,228

【平成28年度実施公開講座・講演会・シンポジウムの例】

講座名	講師	延べ参加人数
毛利元就の六人の息子たち	秋山伸隆（人間文化学部教授） 光成準治	578
ひろしま学を考える	馬本 勉（生命環境学部教授） 鈴木康之（人間文化学部准教授） 前川義春（広島市立大学教授） 城市真理子（広島市立大学准教授）	272
言語を通じて世界を知る	小川俊輔（人間文化学部准教授） ロナルド・スチュワート（人間文化学部准教授） シュラトフ・ヤロスラフ（広島市立大学准教授） 宇野昌樹（広島市立大学准教授）	137
ノーベル平和賞受賞者・ジェリー・ホワイト氏講演会 （本学・ASHOKA JAPAN 共催）	ジェリー・ホワイト（Global Impact Strategies CEO, 県立広島大学特別栄誉教授）	約 200
地域創生と農業・農村の新たな挑戦 （本学・早稲田大学共催シンポジウム）	矢口芳生（福知山公立大学教授） 斎藤 修（千葉大学名誉教授） 堀口健治（早稲田大学名誉教授）	97
参院選の動向と今後の政治のゆくえ ～アベノミクスと日本の外交～	福岡政行（県立広島大学客員教授）	約 100
一流のプロフェッショナルの十ヶ条	中村勝宏（日本ホテル㈱取締役統括名誉総料理長, ホテルメトロポリタンエドモント統括名誉総料理長）	約 80

競争的外部資金獲得状況

文部科学省科学研究費助成事業

平成 28 年度の科学研究費助成事業の採択件数は 90 件で、10 年連続で中四国・九州・沖縄の公立大学のトップに位置しています。

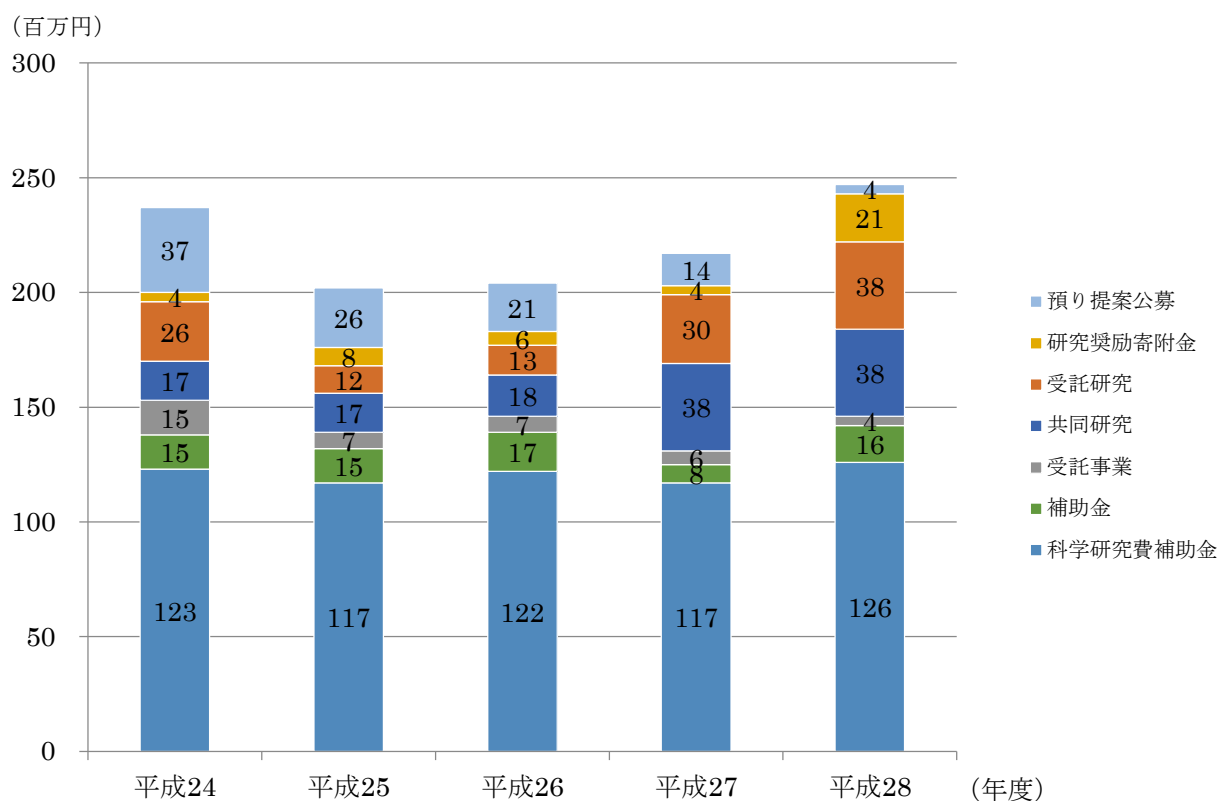
【研究（公募）区分ごとの採択件数（H 2 8 年度）】

研究区分	新学術 領域研究	基盤研究 (B) (一般)	基盤研究 (C) (一般)	挑戦的 萌芽研究	若手研究 (A)	若手研究 (B)	研究活動 スタート 支援	計
採択件数	1	4	59	6	0	20	0	90

【平成 2 8 年度の採択研究課題の例】

学部等	学科等	職名	代表者	研究種目	研究課題
人間文化 学部	国際文化学科	教授	侯 仁鋒	基盤研究 (B)	コンピュータ適応型中国語テストの開発と検証
人間文化 学部	健康科学科	教授	谷本 昌太	基盤研究 (C)	加熱した魚をおいしくいただくための臭い成分指標を用いた品質制御技術の開発
人間文化 学部	健康科学科	助教	山縣 誉志江	若手研究 (B)	嚥下障害者のためのとろみの簡易的な粘度測定方法の検討
経営情報 学部	経営学科	准教授	朴 唯新	基盤研究 (C)	日米韓 ICT 企業の特許戦略:テキスト分析による動態的析出
経営情報 学部	経営情報学科	准教授	富田 哲治	基盤研究 (C)	原爆被爆者における2次的な放射線被曝による死亡危険度の評価
センター	総合教育センター	講師	辻 文	若手研究 (B)	熱中症予防を目指した高体温誘因の過換気と脳血流低下反応の特性解明
生命環境 学部	生命科学科	教授	八木 俊樹	新学術 領域研究	軸糸直径変化による鞭毛纖毛運動の調節機構
生命環境 学部	生命科学科	准教授	菅 裕	基盤研究 (C)	プリメタゾアモデルの拡充による動物多細胞性進化の機構解明
生命環境 学部	生命科学科	助教	藤田 景子	若手研究 (B)	四倍体欧米雑種ブドウの果皮色に関わる遺伝子座の探索
生命環境 学部	環境科学科	准教授	三苦 好治	基盤研究 (B)	ナノ磁性鉄アシスト方式による土壌中放射性セシウムの熱分離技術の開発
生命環境 学部	環境科学科	助教	松本 拓也	若手研究 (B)	フグ毒テトロドキシンの腸管吸収と尿中排泄のメカニズムの解明
保健福祉 学部	看護学科	教授	岡田 淳子	基盤研究 (B)	医療関連感染バーデン減少のための患者手指衛生推進戦略の構築
保健福祉 学部	理学療法学科	教授	島谷 康司	基盤研究 (B)	実践現場に即した集団における発達障害の定量的行動評価システムを構築する
保健福祉 学部	理学療法学科	准教授	長谷川 正哉	若手研究 (B)	足底感覚入力を用いた歩行指導方法の理論構築とその応用
保健福祉 学部	作業療法学科	教授	川原田 淳	挑戦的 萌芽研究	在宅バーチャル言語訓練時の心身状態を把握可能な無意識生体計測法の提案
保健福祉 学部	コミュニケーション 障害学科	教授	伊集院 睦雄	基盤研究 (C)	高齢者における TOT 現象の発現機序について
保健福祉 学部	人間福祉学科	准教授	田中 聡子	基盤研究 (C)	母子家庭自立支援における多様な「大人モデル」提示プログラムの試み

外部資金獲得状況



※「科学研究費補助金」は、年度ごとの採択額（新規，継続含む），その他外部資金は年度契約額。

特許

現在の本学の特許件数（出願準備中の1件含む）：148件

【代表的な発明】

- 放射性汚染土壌無廃水選別システム
- 超音波による農作物の害獣被害の防止

【近年の特許出願件数(年次推移)】

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
5	5	5	5	16	6

【特許技術移転の例】

- 寝返り用介助具「カンコロ君」
- いきいきサポートチェア
- アスリートスポーツ弁当

本学トピックス（平成28年）

2月	国際キャリアセミナー～世界で働く！世界と働く！夢をカタチに～を開催	
3月	一般財団法人広島県環境保健協会との包括的連携協力に関する協定書調印式	
4月	県立広島大学経営専門職大学院の開設式・記念講義を開催	
6月	「第11回全国食育推進大会」において、健康科学科学生の食育活動が農水省による「食育推進ボランティア表彰」を受賞	
	インターネット出願を導入	
7月	経営管理研究科（経営専門職大学院）のMBA開設記念シンポジウムを開催	
8月	開学記念行事「県大フォトコンテスト 2016」を開催	

<p>9月</p>	<p>「広島はレモンで健康じゃ！」シンポジウム及びレモン大学を開催</p>	
	<p>「大学生観光まちづくりコンテスト2016」において、経営学科の学生チームが観光庁長官賞と大阪府知事賞をダブル受賞</p>	
<p>10月</p>	<p>フィリップ・コトラー教授などとのネットワーク・イベントを開催</p>	
	<p>ノーベル平和賞受賞者（地雷禁止に関する功績）ジェリー・ホワイト氏 講演会を開催し、「特別荣誉教授」の称号を授与</p>	
<p>11月</p>	<p>県立広島大学とキャンベラ大学との国際交流協定の締結</p>	
	<p>首都圏で初開催となる「MBAプログラム体験セミナー」（3回シリーズ）を開催</p>	
<p>12月</p>	<p>学生証に電子マネー搭載</p>	
	<p>ええじゃんトーク！を開催</p>	

※各トピックスの詳細は本学ウェブサイトに掲載。

県立広島大学 
Prefectural University of Hiroshima

広報室・本部経営企画室

〒734-8558 広島市南区宇品東一丁目1-71

電話：082-251-9727

FAX：082-251-9405

HP：<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/>



平成29年6月発行